

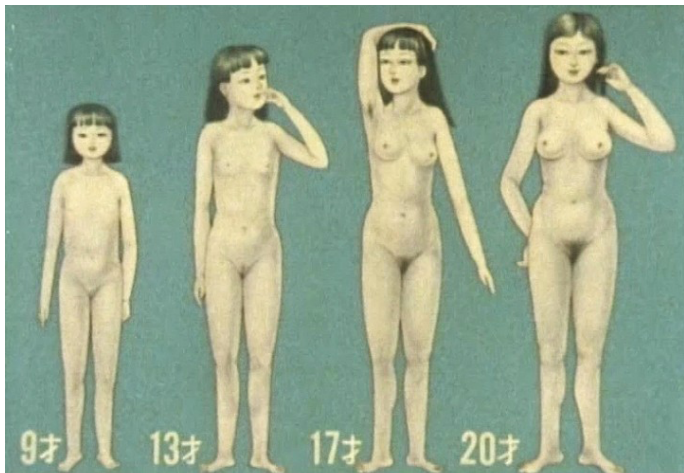
記録
16ミリ
カラー／21分

- 自主企画
- 協力
日本視聴覚教育協会
- 監修
文部省教科調査官
津止登喜江
東京都立母子保健院
院長 二木 武
東京都教育委員会指
導主事 桜井純子

- スタッフ
- 製作・撮影
村山和雄
 - 脚本・演出
瀬藤 祝
 - 照明
本橋俊男
 - 線画
平田晴耕
 - 解説
幸田弘子

文部省特選 1981年教育映画祭優秀作品賞

出産の尊厳やその感動、人が人を愛することの素晴らしさ、さらに健康な生活を送ることが将来生まれてくる生命に対する義務であることを、若い生徒たちに自覚してもらうことを願って、この映画は製作された。



赤ちゃんが生まれてくる瞬間、その息詰まる画面は、わたしたちに生命の不思議さ、尊さを伝えてくれる。長い人類の歴史も、女性がこうして生命を産み育てることによって築かれてきたのである。

プールで泳ぐ女子高校生。ついこの間までは、男子と変わらなかったその身体が、今やまるみを帯びて成熟した女性として完成しつつある。初潮をみた頃から始まるこのような身体の変化は、将来母親となるための準備を始めたあらわれで、第2次性徴と呼ばれている。この変化は卵巣から出るホルモンによって引き起こされ、生殖器官の発育など、様々な女性としての身体の特徴を示していく。この年頃に異性への関心が芽生えるのも、身体の性的成熟にともなう変化のひとつといえる。

一方、男性にも変化があらわれる。精巣では精子が作られ、性的興奮が起けると、精液となって放出される。これを射精と呼ぶ。この精子が女性の体内にはいって、卵子と出会い結びつくと受精する。1ヵ月に1回、女性の卵巣から出てくる卵をめがけて殺到する何億もの精子。それははかり知ることのできない神秘の世界である。受精卵は子宮の内膜に着床し、やがて胎盤ができて母体とつながり、誕生の日まで成長を続ける。胎盤から栄養や酸素を受け取る胎児には、母体の健康が重要な意味をもつ。病気やタバコ、薬などは胎児に大きな影響を与える。とくに、貧血は日頃の食生活が影響する。若い時からの心がけが大切である。